

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	有田町立大山小学校
1 前年度 評価結果の概要	・本校の教育活動への、保護者や地域の関心が高く、期待が大きいことが、保護者や児童へのアンケート結果から分かった。学習指導への評価は概ね達成できたが、個別への相談体制の充実がこれからの課題であるとする ・地域に開かれた学校として、コミュニティ・スクールを活用し、適切に情報を発信し、地域に学ぶ教育の推進に努めたい。本校教育目標を柱に、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成をめざし、児童一人一人を大切に教育を進め、実態に応じた学力の向上、道徳教育の推進、健康・体力作り等にさらに力を入れていきたい。また、さらに共通理解・共通実践できる体制を、全職員で整えていきたい。
2 学校教育目標	「 <b>おおいに学び やさしく まっすぐ伸びる</b> 」大山っ子の育成 ～ふるさとに誇りをもち、向上心あふれる、笑顔の花咲く大山小学校～
3 本年度の重点目標	1 学力の向上…①校内研究:主体的に学ぶ授業の創造(2年次)～自分の考えをもち、表現する力を伸ばす算数学習指導の工夫～②タブレット端末の効果的な活用 2 心の教育の充実…①人権・同和教育の推進…自尊感情を向上②「特別の教科道徳」と特別活動を絡めながら行う教育活動の充実③いじめの未然防止、不登校傾向への対応④児童一人一人の特性に応じた教育活動の充実と保護者や関係機関との連携 3 健康安全教育の充実…①体力の形成と運動能力の向上を図る運動環境の充実②「危機に強い学校」の構築 4 開かれた学校づくり…①地域の教育力を生かした教育活動の充実②学校評価の活用によるPDCAサイクルの充実 5 特別支援教育の充実…①児童一人ひとりの特性に応じた教育活動の充実と保護者や関係機関との連携②誰もが分かりやすい支援の工夫③特別支援教育への理解と啓発活動の推進

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○自分の考えをもち、表現する力を伸ばす、主体的に学ぶ授業の創造	○学力向上対策評価シートで共通理解した授業改善の取り組みを行った教師を85%以上とする。	・学習状況調査結果の分析を行い、児童のつまずきや授業改善のポイントを明らかにし、授業実践に活かしている。	A	・「成果指標達成をめざし、分かる授業への改善を行っている」と答えた教職員は94%。「授業はよく分かります」と答えた児童は96%だった。 ・ICTを活用した実践は、日常的に行われている。	A	・全国・県の学習状況調査の結果は平均をわずかながら下回ってはいるが、タブレット端末や電子黒板を活用した効果的な授業に取り組んでおり、今後の伸びに期待する。	学力向上
	○自分の考えをもち、表現する力を伸ばす、主体的に学ぶ授業の創造	○「書く活動で自分の考えを書くことができた」と実感する児童の割合を75%以上とする。	・「考えをもち、表現する力」について校内での研修を行う。 ・授業で「書く活動」の時間の確保をする。	A	・授業が分かると回答した児童が90%を超えていた。 ・校内での研修を計画的に行うことができた。 ・ICTを活用して、自分の考えを伝える時間を設けることができた。 ・「書く活動」の時間を確保したことで、発表への意欲も高まった。「進んで発表している」と答えた児童は91%であった。	A	・「書く活動」に力を入れた取組は評価できる。加えて、自分の意見を人前で発表できる力を培ってほしい。 ・宿題にもよく取り組んでいる。	研究主・副
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分と他人との違いを認め、「自分や友だちのよさを見つけられること」が85%以上の児童が感じることができる。	・道徳の時間の充実に努め、「考え、議論する道徳」の実践を継続する。 ・「Q-U」を分析し、学級の実態を捉え、個に応じた指導を充実させる。	B	・多くの職員が道徳の時間の充実に努め、「考え、議論する道徳」の実践を継続できた。 ・Q-Uを学級経営及び個別指導に活かした結果、「自分には良いところがある」と答えた児童がさらに増えたが、アンケート結果は目標数値をやや下回った。	A	・子どもたちがよりよく育つように、道徳の授業を充実させながら、先生方が細やかに対応している。	道徳推進 人権・同和教育
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○日頃から児童一人一人の実態を把握し管理職、担任・保護者・SCやSSWとの連携を図る。	・心のアンケートや生徒指導で名前のある児童の実態把握に努める。 ・学級、学年の実態把握に努める。	A	・心のアンケートを毎月行い早期に児童の実態把握に努めることができた。またSCとのカウンセリングも気になる児童や保護者を多く面談に繋げることができ児童の心の安定につながった。	A	・いじめをなくするのは難しいが、本当に困ったときに相談できる体制づくりが大切である。児童や保護者との面談を多くしてもらうことが先生との信頼関係につながっていくと考える。	教育相談
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童を80%以上とする。	・キャリアパスポートを活用し、短期目標を設定させ、毎月自己評価を行うことで、目標に向かう心情を育てる。	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童が96%だった。行事や集会後に振り返る時間をとったことで、自分を見つめ直すことができていた。	A	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童が96%だった。行事や集会後に振り返る時間をとったことで、自分を見つめ直すことができていた。	A	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童が96%というのには喜ばしいことである今後も地域に誇りをもちながら頑張ってもらいたい。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」	①新体力テストの結果において、65%以上の項目で県平均を上回る。また、年度末のアンケートで「週4日以上運動をしている」と回答する児童の割合80%以上とする。 ②本校生徒指導重点目標「挨拶」「たてわり掃除と集団登校」「学校のきまり遵守」ができた児童を90%以上とする。 ③朝食摂取率90%以上を目指し、保護者への啓発活動を行う。	・毎日、昼休みに外遊びを促す放送を行う。 ・定期的に縦割り遊びを行い、異学年で運動を含んだ遊びで体を動かす。 ・「なわとびタイム」や「マラソントime」で全校的に運動する時間を設定し、運動習慣を高める。 ・生活のめあての内容を、毎月の重点指導内容に位置づけたり、良好項目については随時承認・称賛したりする。 ・「おにぎり弁当の日」を設定し、家族で「食」を考える機会を設ける。	B	・進んで外遊びができたという肯定的な評価が88%であった。 ・おにぎり弁当の日では、自分でおにぎりを握ることで食の大切さに気付く児童が多くなった。 ・縦割り遊びを通して異学年の交流や多様な遊びに触れることができた。 ・「マラソントime」や「なわとびタイム」を通して持久力や技に挑戦する態度が身に付いた。 ・時間いっぱい縦割り掃除に取り組むことができた。無言掃除には課題が残った。 ・月の生活の話を自ら元気の良い挨拶しようを受け、自ら挨拶をする児童が増えた。これを今後習慣化させる必要がある。 ・本校生徒指導重点目標「挨拶」「たてわり掃除と集団登校」「学校のきまり遵守」ができた児童は90%を超えていた。	B	・外遊びをする児童が多く、体力もついていると思う。コロナ禍の影響からか、けがの件数が多いようだが、安全に気をつけながらこれからも体力向上を目指してほしい。 ・あいさつについては、見守り隊からは個人差が大きいと聞いている。誰に対しても気持ちのよいあいさつができるよう、今後も指導を続けてほしい。	生活部 保体部
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・稼業日平日は18時まで、定時退勤日(毎週金曜日)は17時まで、全員帰宅の実施を目指す。 ・稼業月時間外勤務40時間以内を実施する。	・稼業日平日は18時まで、定時退勤日(毎週金曜日)は17時まで、全員帰宅の実施を目指す。 ・稼業月時間外勤務40時間以内を実施する。	B	・定時退勤日の取組については達成できなかった。見直しを持った仕事の進め方について今後も支援していきたい。 ・時間外勤務(在校)時間については、目標を概ね達成することができた。	B	・業務改善については先生方の負担をへらすことが重要である。地域でできることがあれば支援していきたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○学校運営組織力の向上	○組織体制の効率化、機能の強化、会議や事務の効率化、校務の効率化を実践する教職員を85%とする。	・会議等、時間の設定や資料の事前配布等を確実に実行。 ・主に企画委員会で行事・企画の目的や意義を再確認し、組織的に活動しやすい環境整備を行う。	A	・会議資料や配付物をデジタル化し、業務の効率化を図ることができた。 ・「効率的な業務の遂行を心掛けている」と回答した教職員は94%であった。はなまるアプリの導入で、配付物や電話対応が軽減したことも、時間の有効活用につながった。	A	・はなまるアプリなど、ICTを効果的に活用することで、業務の効率化が図られている。	教務部
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○「開かれた学校」づくりの推進	○保護者・地域との連携と人的・物的資源の活用	○「学校は、よく情報を伝え、保護者の相談や要望に誠実に対応している」と実感する保護者の割合を85%以上とする。 ○「地域の学びがとて深まった」と回答する児童を80%以上とする。	・保護者に真摯に向き合い、丁寧な対応に努める。 ・学校HPの充実させ、学校・学級・保健などの通信を定期的に発行する。 ・ゲストティーチャーと連携した授業実践を行う。	A	・学校運営協議会委員から助言をいただいたことを実践に生かすことができた。 ・計画的に地域のゲストティーチャーを招いた体験的な活動を全学年で行い、学校HP等で発信することができた。	A	・6年生の歴史探訪は今後も続けてもらいたい。子どもたちには、故郷を知り、故郷に誇りをもってこれからも生きてほしい。 ・地域活動に特化したコミュニティスクール年間活動計画を作成してほしい。	教務部
○特別支援教育の充実	○個に応じた支援体制の充実と教員の専門性、認識の向上	○「特別支援に関する理解が深まった。」と回答する教員を80%以上とする。	・特別支援教育に関する研修を実施する。 ・支援を要する児童の情報共有、支援会議の実施する。 ・外部専門機関と連携を密にとる。	A	・「特別支援に関する理解が深まった。」と回答した教員が100%であった。 ・通常学級で支援が必要な児童に、特別支援の観点から支援を提案することで、他の教員の理解にもつながった。	A	・今後も個に応じた支援体制を充実させていってほしい。	特別支援教育

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・保護者アンケートの結果や学校関係者評価から、本校の教育活動への関心や期待の大きさが分かる。特に保護者アンケートでは、「確かな学力」「心の教育」「体験活動」などで95%を超える高い評価をいただいた。保護者・地域の期待に応えるべく、丁寧に細やかな指導や支援を続けていきたい。 ・学力向上や生活指導等にはやや課題も見られたので、さらに力を入れていく。共通理解・共通実践できる体制を、全職員で整えていきたい。 ・本校教育目標を柱に、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成をめざし、引き続き児童一人一人を笑顔にする教育を進めていきたい。また、地域に開かれた学校として、コミュニティ・スクールの利点を生かし、ICTを活用しながら適切に情報を発信し、地域に学ぶ教育の推進に努めたい。
----------------	---